

2023年4月21日

立教大学国際学術研究交流制度  
2023年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	経営学部・教授
	氏名	岡本 紀明
受入学部・研究科・研究所		経営学部
招へい 研究員	所属・職	University of Glasgow・Lecturer 所属機関所在国：英国
	氏名	Paul Ahn
招へい期間		2023年4月3日～2023年4月21日（19日間）
研究経費		631,850円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。  
講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2023年4月2日	2023年度「招へい研究員として」来日（4月3日以降、主に12号館教員控室・図書館にて研究に従事）
2023年4月8日	社会学者ピエール・ブルデューの観点に基づく会計研究に関する打ち合わせ（参加者数：2名） Bourdieuian accounting research（10:30～12:00） 池袋キャンパス 1201教室
2023年4月15日	ビジュアルデータを用いた研究方法論の会計研究への適用に関するセミナーを開催（参加者数：7名） Visual methodology in accounting research（13:30～15:00） 池袋キャンパス A201教室
2023年4月19日	中国における儒教的文化環境のもとでの会計プロフェッションに関する研究セミナーを開催（参加者数：4名）

	Confucian accountancy in China (17:10~18:45)
	池袋キャンパス A201 教室
2023年4月21日	招へい研究員期間終了
2023年4月22日	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回の招へいに伴って行ったセミナーの詳細は、以下の通りである。

1. “Bourdieusian accounting research (社会学者ピエール・ブルデューの観点に基づく研究打ち合わせ)”—社会学者ピエール・ブルデューが駆使したハビトゥスやドクサといった概念の違いや、主にこれまでの会計研究におけるその適用に関する意見交換を行った。特に、欧米のもしくはグローバルな考え方や慣行が、日本のようなローカルなコンテクストでいかに浸透もしくは対立するかを考察するのにブルデューの理論が有効であると強調された。さらに、ハビトゥスはいかに変化し得るのかといった問題に関して、活発な議論を交わした。
2. “Visual methodology in accounting research (ビジュアルデータを用いた研究方法論の会計研究への適用)”—一定性的研究をいかに説得力あるものにするかという重要な課題に対し、ビジュアルデータ、特に写真を用いた研究に関するセミナーであった。具体的には、photo elicitation (写真誘発) という人類学的研究でも用いられる手法に関する解説及びディスカッションが行われた。方法論として重要なのは写真の選択で有り、研究者よりも研究対象者による自由な選択が、研究資料としては重要であるという主張が展開された。
3. “Confucian accountancy in China (中国における儒教的文化環境のもとでの会計プロフェッションに関する研究)”—中国ではグローバルな知識や経験を有する会計士が四大監査法人に属して大企業を監査するという、先進国ではどこでも見られる状況も生じているが、地方都市では伝統的な儒教文化を重視する会計士(会計事務所)も一部見られる。伝統を重んじる儒教的公認会計士は、伝統に従った格好をし、考え方も儒教的文化に則り、Guanxi (関係) を最も重視する。この点に関して、監査の質が保たれるのか討論が交わされた。監査には会計士の独立性が重要になるため、Guanxi (関係) に依存することとは対極にあるのではと疑問に思った参加者が多く、活発な討論が見られた。

以上、合計3回のセミナーには経営学部教員が複数名参加し、Ahn氏は参加者に適宜質問を投げ掛けるなど、インタラクティブで実りあるものとなった。また各セミナーには本学の大学院生(経営学研究科国際経営学専攻)もその都度参加し、教育的な効果もあったと考えられる。加えて、一部のセミナーには経営学部のみならず、経済学部(会計・ファイナンス学科)教員の参加もあり、学部横断的に有益であったと思われる。今後、特に経営学部(国際経営学科)の教員とのさらなる共同研究の計画があり、継続的に交流を続ける予定である。